

2025年9月16日

株式会社 NTT ドコモ

## 「ドコモの森」2 か所が環境省「自然共生サイト」に認定 ～エリアごとに最適な保全管理を策定・実行～

株式会社 NTT ドコモ（以下、ドコモ）は、ドコモが保全活動を実施している「ドコモの森」<sup>※1</sup> 2 か所について、本日、環境省が「30by30」<sup>※2</sup> 目標達成に向け推進する「自然共生サイト」<sup>※3</sup> の認定を取得しました。

今回の認定取得により、2024年に認定された「ドコモ泉南堀河の森（大阪府）」<sup>※4</sup> とあわせて、計 3 か所の「ドコモの森」が認定を取得したことになります。



ドコモは、国際社会がめざす 2050 年「自然と共生する世界」および 2030 年「ネイチャーポジティブ」の実現に貢献するため、「生物多様性中期ロードマップ」（以下、ロードマップ）を策定しています<sup>※5</sup>。重点テーマの 1 つに掲げる「自社アセットの活用」において、地域拠点の参画による生物多様性保全をアクションに定め、2027 年度までに全国で 5 か所の「自然共生サイト」の認定取得をめざしています。

今回認定を取得した「ドコモ土岐の森（岐阜県）」<sup>※6</sup> には、残存する湧水湿地に東海丘陵要素であるハナノキが、その周囲の遷移が進みつつある湿性の環境にはヒメタイコウチやモウセンゴケが、常緑混交林では肥沃な土壌と陰湿な環境にホンゴウソウが、それぞれ生育・生息しています。また、「ドコモ四国 土佐・いの 元気の森（高知県）」<sup>※7</sup> には、林縁部の明るく攪乱の起きやすい落葉広葉樹林にジツツジ、シュンラン、シハイスマレなどが生育しています。いずれも、地域の専門家と協働した調査により現地の環境を把握した上で、最適な保全管理を策定・実行しています。詳細は別紙をご確認ください。

ドコモは、今後も「2030 年ネイチャーポジティブ」および「2050 年自然と共生する世界」への貢献に向けた取り組みを進めてまいります。

※1 1999 年より全国各地で「ドコモの森活動」として、ドコモグループ社員とその家族が地域の方と交流を深めながら森林整備活動に取り組んでいます。また、生息するさまざまな生物の保全など、より多様性あふれる場にしていく活動にも取り組んでいます。

※2 「30by30（サーティ・バイ・サーティ）」とは、2022 年 12 月に開催された COP15 にて世界目標として採択された「2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しよう」と定めた目標のこと。日本の国土の 30%を対象区域にすることをめざしています。ドコモは「30by30 アライアンス」に参加しています。

※3 自然共生サイトとは、「民間の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する仕組みのことです。

※4 信達郷共有林野組合有林であり、信達郷共有林野組合・公益財団法人大阪みどりのトラスト協会との協定に基づきドコモが活動しています。

※5 2025年5月22日報道発表

[「ドコモ、2030年ネイチャーポジティブ・2050年自然と共生する世界への貢献に向け『生物多様性中期ロードマップ』を策定」](#)

※6 土岐市有林であり、岐阜県・土岐市との協定に基づきドコモが活動しています。

※7 いの町有林であり、いの町との協定に基づきドコモが活動しています。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社 NTT ドコモ

経営企画部 サステナビリティ推進室

ML : s-promotion@ml.nttdocomo.com

## ドコモの「自然共生サイト」概要

### ■「ドコモ土岐の森」

岐阜県土岐市に所在し、「ドコモ土岐の森<sup>※1</sup>」としてドコモが管理する森です。標高約 230-270m に位置しており、湧水湿地、そこから少し遷移の進んだ湿性の環境、遷移の進んだ二次林（常落混交林）などの環境が隣接して形成されています。湧水湿地を含む水域では、残存する湧水湿地に東海丘陵要素であるハナノキが、その周囲の遷移が進みつつある湿性の環境にはヒメタイコウチやモウセンゴケが、常緑混交林では肥沃な土壌と陰湿な環境にホンゴウソウが、それぞれ生育・生息しています。

地域の専門家と協働した調査により現地の環境を把握した上で、めざす森の理想像に対して最適な保全管理を策定・実行しています。



### ■「ドコモ四国 土佐・いの 元気の森」

高知県吾川郡いの町に所在し、「ドコモ四国 土佐・いの 元気の森<sup>※2</sup>」としてドコモが管理する森です。標高約 60-140m の中山間地に位置しており、大部分がヒノキ人工林（地形・方位・照度などにより、林床には低木が混じる部分や湿生シダ類が密生する部分がある）で構成される中で、沢筋を中心とした湿性のシダ類や草本類が生育する環境、落葉広葉樹林（遷移初期段階で先駆性の木本が生育する明るい疎林）などの環境が形成されています。中でも林縁部の明るく攪乱の起きやすい落葉広葉樹林にはフジツツジ、シュンラン、シハイスマレなどが生育しています。

地域の専門家と協働した調査により現地の環境を把握した上で、めざす里山の理想像に向けて最適な保全管理を策定・実行し、社員やその家族、また地域の人たちが里山の生物多様性の豊かさとその恵みを感じ、学べる場所に育てています。



## ■ドコモ泉南堀河の森（2024年2月認定）

大阪府泉南市に所在し、「ドコモ泉南堀河の森<sup>※3</sup>」としてドコモが管理する森です。北に大阪、南に和歌山を隔てる和泉山脈のほぼ西端に位置しています。

さまざまな環境に成立する生態系がモザイク状に重なり合っていること、オオムラサキ・ニホンヒキガエルに代表されるような里地里山を象徴する希少生物が生育生息していることから、その希少性を認められ「自然共生サイト」に登録されました。



※1 土岐市有林であり、岐阜県・土岐市との協定に基づきドコモが活動しています。

※2 いの町有林であり、いの町との協定に基づきドコモが活動しています。

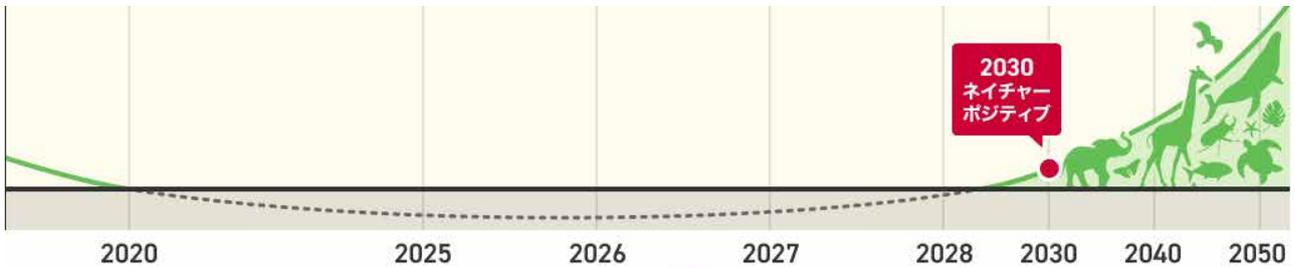
※3 信達郷共有林野組合有林であり、信達郷共有林野組合・公益財団法人大阪みどりのトラスト協会との協定に基づきドコモが活動しています。

## 「生物多様性中期ロードマップ」

ドコモは、国際社会がめざす 2050 年「自然と共生する世界」および 2030 年「ネイチャーポジティブ」の実現に貢献するため、ドコモは「生物多様性中期ロードマップ」を策定しました。

本ロードマップでは、生物多様性保全の取組みにおけるドコモとしてのありたい世界・めざしたい姿やドコモが実現したいことを示すとともに、自社事業における生物多様性重要課題（「保護価値の高い土地の開発」、「周辺生態系への影響」、「資源採掘」）および機会領域（自社アセットの活用）に対する目標を定め、年単位での取組みを設定しました。ロードマップを実行していくことで、リスク低減の対応を強化し、社会へ波及させていくドコモならではの取組みを推進し、ヒトと自然が“あたりまえに”共生している世界の実現をめざしていきます。

詳細はドコモのホームページ「[生物多様性中期ロードマップ](#)」をご覧ください。



### ネイチャーポジティブへの貢献

保護価値の高い土地の開発 周辺生態系への配慮	通信設備 周辺の 生物多様性 配慮	基地局周辺での生物多様性配慮施策	モニタリング調査/ 新規トライアル	有効施策の実装検討	本格実装/ 適用範囲の拡大など	自然と共生する世界 実現への貢献に向け アクションの継続的な 更新・強化・拡大を実施
		基地局設置時のステークホルダーエンゲージメント強化	建設マニュアルの改定	ステークホルダーとのコミュニケーション継続/ ルール見直し検討		
		その他通信設備周辺でのステークホルダー参加型生物多様性保全	対象地選定/ トライアル	本格実装	エコロジカルネットワーク形成検討	
資源採掘	鉱物資源への対応・ 資源循環	サプライヤーへの働きかけ (紛争鉱物リスク軽減・人権課題対応)	調達時のサプライヤー評価改版の運用 重要サプライヤーの第三者評価原則実施検討 サプライヤーとの直接対話の継続	サプライヤー向け対応のアップデート検討		
		資源循環の促進	マテリアルリサイクル手法の検討/検証	マテリアルリサイクルによる再製品化	マテリアルリサイクル拡大	
自社アセットの活用	ICT活用	ICT活用による生物多様性保全に資するソリューション/サービスの提供				
	地域拠点参画	自然共生サイト1件 地域拠点による保全	自然共生サイト1件 地域拠点による保全	自然共生サイト2件 地域拠点による保全		
社員教育の推進						



気候変動緩和	Scope1・2	省電力化・再エネ導入による排出削減、再エネ導入時の生物多様性配慮など	2030 カーボン ニュートラル Scope1・2	2040 ネットゼロ Scope1・2・3
	Scope3	サプライチェーンの排出削減、環境配慮型スマートフォン販売など		
	お客さまの行動変容	日常生活の行動見える化、自分事化できるサービス提供など		